

カルガモのお引越し

7月8日、神宮寺大浦沼での観察が終わり、帰宅途中であった。

沼から旧国道に戻るには、奥羽本線の地下道（アンダーパス）を通ります。下り坂に差し掛かると、なんと道路上にカルガモの親子が歩いているのではないかと。雛は9羽もいるので、お引越してしょうか。

親子は坂道をどんどん下っていったが、このままでは車に轢かれてしまうかもしれない危険な状態です。両側は切り立ったコンクリートの擁壁があり、逃げ場もありません。



地下道の真ん中。

直ぐハザードランプを点灯し左側に停車。ビデオカメラを片手にして、前後から来る車に注意を呼びかけながら、カルガモを安全な場所に誘導することにした。

坂道をどんどん下っていくカルガモの親子。地下道を無事に通り過ぎても、その先には旧国道があり、交通量も多く、スピードが出ていますので、とても横断できるものではありません。しかも、沼や小川などもありません。



カーブでスピードが出ていれば、避けられない危険な状態です。



最深部まで進んだ。この先に出られても旧国道の激しい交通量から横断は出来なんでしょう。

反対側には大浦沼があるので、こちらに戻ってくれないかと願った。すると、親子は地下道の最深部まで進むと、向き変えてこちらに戻って来たではないか。

時々通る車をカルガモから離れるよう誘導しながらの撮影となった。親子は直ぐわきを通る車に怯えながら、擁壁下の草むらに隠れて動かなくなった。

なんとか大浦沼の方向に移動するよう、ゆっくりと近づいた。親は意を決したかのように草むらから道路側に出てくると、雛は全員後に続いて走り初めた。



Uターンした親子は、轟音を響かせながら通る車に怯えて草むらに身を潜めます。



再び道路に現れた親子。早足で駆け上ります。

やっと地上の道路に出てくると、直ぐに左側の民家の敷地に入って行った。車庫の前を横切りながら再び道路に出て、左右を確認しながら横断した。縁石沿いに歩きながら向かい側の屋敷に入って行った。ここまできると大浦沼はもう直ぐです。

車を地下道に停車したままであったので、引き返すことにした。一旦車に戻り、再び民家のあたりのカルガモを探したが見つかりません。



交差点の民家の敷地に入り込むと車庫前を横切りながら再び道路に出てきた。親は左右を確認しながら向こうの縁石まで誘導。



ぴったりと親に寄り添いながら足早に進む。

ここからは沼までは約20m。

危険な地下道から脱出に成功した親子は、沼まで辿り着いたことでしょう。今は、安心して沼で過ごしていることと思われます。



ここから右に曲がり、玄関前の通路を進んだ。
民家のすぐ後ろには大浦沼があります。



探したが見つかりません。きっとここまで辿り
着いたことでしょう。